

経営理念	【保育目標】 みつけたよ 自分らしさとおもしろさ しぜんとともにだち 佐古キッズ 【経営目標】 『主体者としての心を育み、自己肯定感や人への信頼感を身につけていく保育の在り方をめざす』 〈子ども像〉 健康でたくましい子ども。やさしく思いやりのある子ども。自分で考え話しが聞ける子ども。なかよく協力する子ども。 〈保育所像〉 子どもの最善の利益を考慮し、健全な心身の育成のための「子どもにふさわしい生活の場」として、環境を通して養護と教育を一体的に行う保育所 保護者の子育てを支援する保育所 〈保育士像〉 子どもを見る目を豊かにしよう 子どもの最善の利益に立とう 仲間と創造し協働しよう 保護者と共に育とう育てよう
------	---

中期経営目標		短 期 経 営 目 標 (評価項目)	自 己 評 価		保育所関係者評価		改 善 策 等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 一人一人が自分らしさを発揮しながら遊ぶための環境づくり	① 子どもの興味や関心に応じた教材研究をする	季節に応じた教材研究では、様々な素材や用具の使い方やどのような遊びに適しているかなど職員間で情報共有をしながら取り組むことができた。また、園内研修でネイチャー研修も行い保育者が園庭にある植物を知る機会を設け、保育者自身も楽しみながら保育実践に活かすことができた	B	・教材研究をする組織としての保育者の資質向上に繋がっている。佐古保育所は園庭や周辺の自然環境に恵まれている。その環境を活かしながら、今後も継続した取り組みを行うと共にあらゆる年齢層の職員が学べるような園全体の体制を望む。	A	引続き、教材研究や保育実践に活かせるような、研修体制を整えていく。保育の中で使う素材や四季折々の自然物等を意図的に遊びに取り入れる等、職員全体の知識を深めながら取り組んでいく。
		② 子どもの内面や思いを読み取り主体的に遊びに関われるような保育者の援助について考える	今年度の園内研究のテーマにも、『子どもたちがやってみたくなるような環境や保育者の関わり』を大切に子どもたちの興味や関心を子どもの姿から読み取り保育者の願いと重ねながらの実践を積み重ねてきた。保育者が子どもの表情や行動から思いを読み取り言葉にして伝えることを意識して関わる事ができた	B		B	子ども一人一人の興味関心を読み取りながら、応答的に関わり、子どもの主体性をもって遊べるよう、保育者が人的環境としての役割ができるように引き続き取り組んでいく。
		③ 意欲的に身体を動かして遊ぶ環境の構成を行う	0歳児～5歳児までの子どもたちが、様々な遊びを通じて身体を動かす楽しさが味わえるように、保育者が遊びを提案したり、育ちに応じた用具を準備したりして取り組んできた。遊びの中で異年齢児の遊び方に刺激を受けてやってみようとしたり幼児組の子どもたちが乳児組の子どもたちに遊び方を教えてあげるなど異年齢児の交流も増えてきた。	B		A	子どもの年齢に応じた、意欲的に身体を動かせる遊びの環境や、安全面に配慮した園庭の使い方等、職員間で連携しながら取り組んでいきたい。
職員の育成・資質向上や運営	○ 共通課題に向かう職員の協力体制作り	① クラスに関わる職員と、保育を伝え合い保育が繋がるための引継ぎ（報告・連絡・相談）	担任間やクラスに関わる職員との情報は、引継ぎノートを活用し共有に努めた。基本的には口頭で再度伝える事を意識して実践してきた。また、保育内容や行事についてもパート職員との話し合いの時間の確保が難しい状況が課題である。	A	・クラスに関わる職員への伝え合いや共有ノートを活用するなど、様々な工夫をし組織として協力し合う体制に向けての取り組みを職員が意識して行えていることが結果に繋がったと感じる。安全管理の面でも、あたりまえの事を徹底して行うなど、今後も引き続きの取り組みに期待している。	A	引き続き伝え合いが確実となるように全員が意識して取り組んでいく。共有できたことが子ども理解や保護者対応に活かせるよう、クラスの共有ノートや口頭での確認も日々意識して取り組む。
		② 園内外の環境の安全管理や危機管理についての理解を高める	日々の人数確認や、子どもたちが安全に遊べるように、安全点検の実施や子どもたちを見守るための職員の連携等を意識して行ってきた。子どもたちへの安全教育や防災教育なども各年齢に応じて分かりやすく伝える実践ができた。	B		B	日々の、安全管理や危機管理意識を職員自らが振り返り実践に活かすことができるよう取り組んでいく。また子どもたちへの年齢に応じた安全教育も引き続き実践していく。
地域に開かれた園づくり	○ 保育者や地域に親しまれる保育所	① 保育所での取り組みや子どもの育ちを保護者に伝えるための実践を行う	クラス便りや写真を用いたミニ便り、参観日の資料など写真を使用し分かりやすく様子を伝える工夫ができた。参観日等の行事の後は、7～8割以上の返信があり子どもたちの成長を喜ぶ声が届けられ成果につながった。ミニ便りではリアルタイムの発信が保護者と子どもとのコミュニケーションのきっかけになり、保育への関心を寄せてくれることへも繋がった。	B	・保育所での保育内容を保護者にダイレクトに伝える工夫が、日々実践できている。写真を用いたミニ便り等も楽しみにしている保護者も多く、保護者アンケートの評価からも感じる事ができる。また、連携交流においては、今年の成果を明確にし、今後の連携内容に繋げていくことを期待している。	A	保護者の安心や職員の保育の質の向上に繋がるように、伝わりやすい内容を考え、園全体で継続して取り組んでいく。個別の伝え方についても一人一人の保護者に応じた伝え方を考え実践していく。
		② 子どもの育ちが繋がる保小中の連携交流を充実させる	年間を通じて、計画的な連携を実践することができた。特に園内研修や合同研修、小学校校内研修等に参加するなど通常の連携活動を行うことができた。職員同士の交流では互いに大切にしていることを伝え合い、知る機会となり具体的な子どもの姿を共有し、学びの連続性の大切さを再確認したことは大きな成果となった。	B		B	今年度の学びを検証し、成果や課題を明確にして来年度も子どもの育ちが繋がる連携交流の充実にも努めていくようにする。